

議員協議会

1

日 時 令和6年2月1日(木)
13:00~
場 所 議員協議会室

【案 件】

芳賀・宇都宮LRT事業について

2-(1) 駅西側の進め方

- NCCの形成に向け、東西の拠点をつなぐ公共交通の基軸を構築していくため、駅西側のLRT整備については、「大谷観光地付近」までを検討区間とし、そのうち、NCC形成の一層の推進とその効果が早期に発現できるよう、「宇都宮駅東口停留場から宝木町1丁目・駒生1丁目（教育会館付近）」までを整備区間としたところである。
- 事業化に向けては、**まちづくりと一体となって取り組むとともに、駅東側の開業後の様々な状況を的確に捉えながら**、東西の基軸となる公共交通として、市民の皆様にご親しまれ、より多くの方にご利用いただけるよう、検討を進める必要がある。



図 駅西側のLRTの検討区間、整備区間

2-(2) 現在の検討状況等

① まちづくりの動向

- ・ 都心部の将来像を実現するための「(仮称)都心部まちづくりプラン」や「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の策定に向けて取り組むなど、駅西側LRT導入を見据えた**まちづくりが進展**している。
 - ・ また、**駅東側のライトラインの開業**により、駅西側への早期延伸への期待や大通り沿線における市街地再開発事業等の民間開発の動きも活発化するなど、**市民や事業者の機運も高まり**を見せている。
- ⇒ 引き続き、こうした**将来のまちづくりと一体となって**、大通りの道路空間再編や停留場など、**LRT導入に係る各種検討を進めるとともに**、まちの将来像を官民で共有し、**各種施策・事業を総合的に推進するため**、市民や事業者との**意見交換を行っていく**。



図 目指す都心部のまちづくりの姿「(仮称)都心部まちづくりプラン(抜粋)」



写真 (仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画策定懇談会 (R5.12開催)

2-(2) 現在の検討状況等

② 大通りの道路空間再編について

大通りの道路空間再編については、「(仮称)都心部まちづくりプラン」における**人中心のウォーカブルなまちづくり**や都市の骨格となる**3環状12放射道路を中心とした将来道路ネットワークの考え方**などを踏まえながら、様々な再編案や交通への影響を検討し、関係機関と協議・調整を行うとともに、まちづくり関係団体や地元商店街と意見交換を実施

⇒ 引き続き、道路空間再編案や交通円滑化対策の検討を行い、**関係機関との協議・調整を行う**とともに、市民生活に密接に関わる歩行空間や荷捌き、停留場などの**道路空間の使い方**等について、まちづくり関係団体等に加え、**LRT沿線をはじめとする多くの関係者との意見交換を丁寧に行っていく。**

【凡例】

-  人の回遊・滞在で使う街路
-  広域的な移動で使う街路
-  拠点間の移動や大通りへのアクセスで使う街路
-  河川(田川・釜川)
-  人中心のウォーカブルな空間

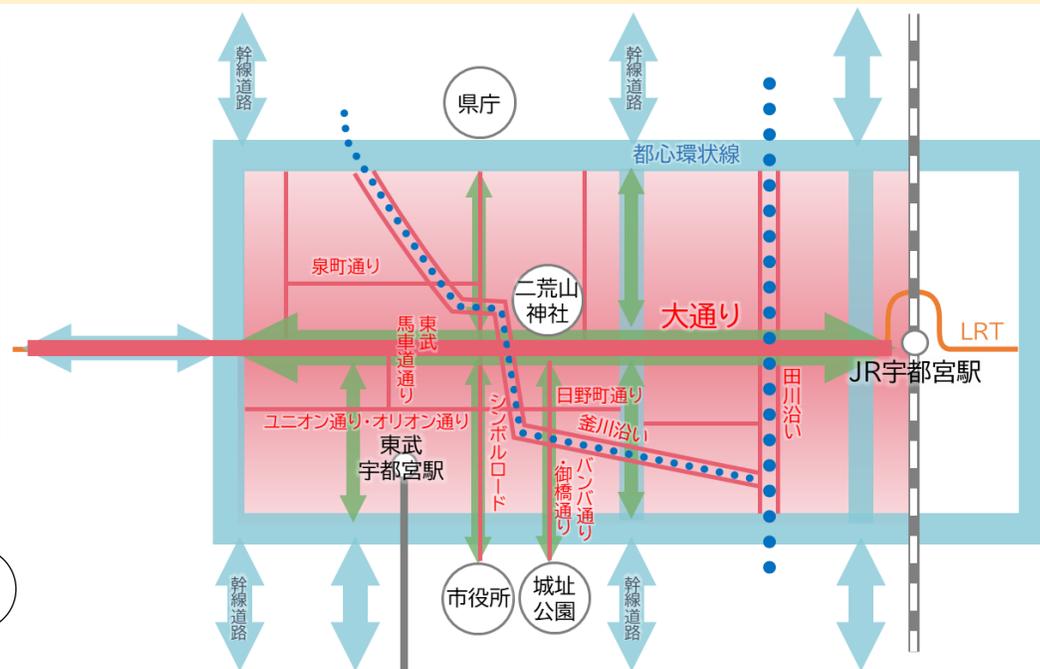


図 人中心のウォーカブルなまちづくりに向けた「まちなかの道路の使い方(抜粋)」

写真 人中心のウォーカブルな道路空間のイメージ (メルボルン) **12**

2-(2) 現在の検討状況等

② 大通りの道路空間再編について

停留場については、大通りの沿道の土地利用や地形などの特性を踏まえるとともに、拠点性や停留場間隔などといった視点から**停留場の配置について検討**

⇒ 今後、この配置イメージをもとに、まちづくりと一体となって取組を推進するため、**市民や事業者との意見交換を行う**とともに、大通りの道路空間再編の検討や需要予測を行いながら、**停留場の位置・形式などを確定していく。**

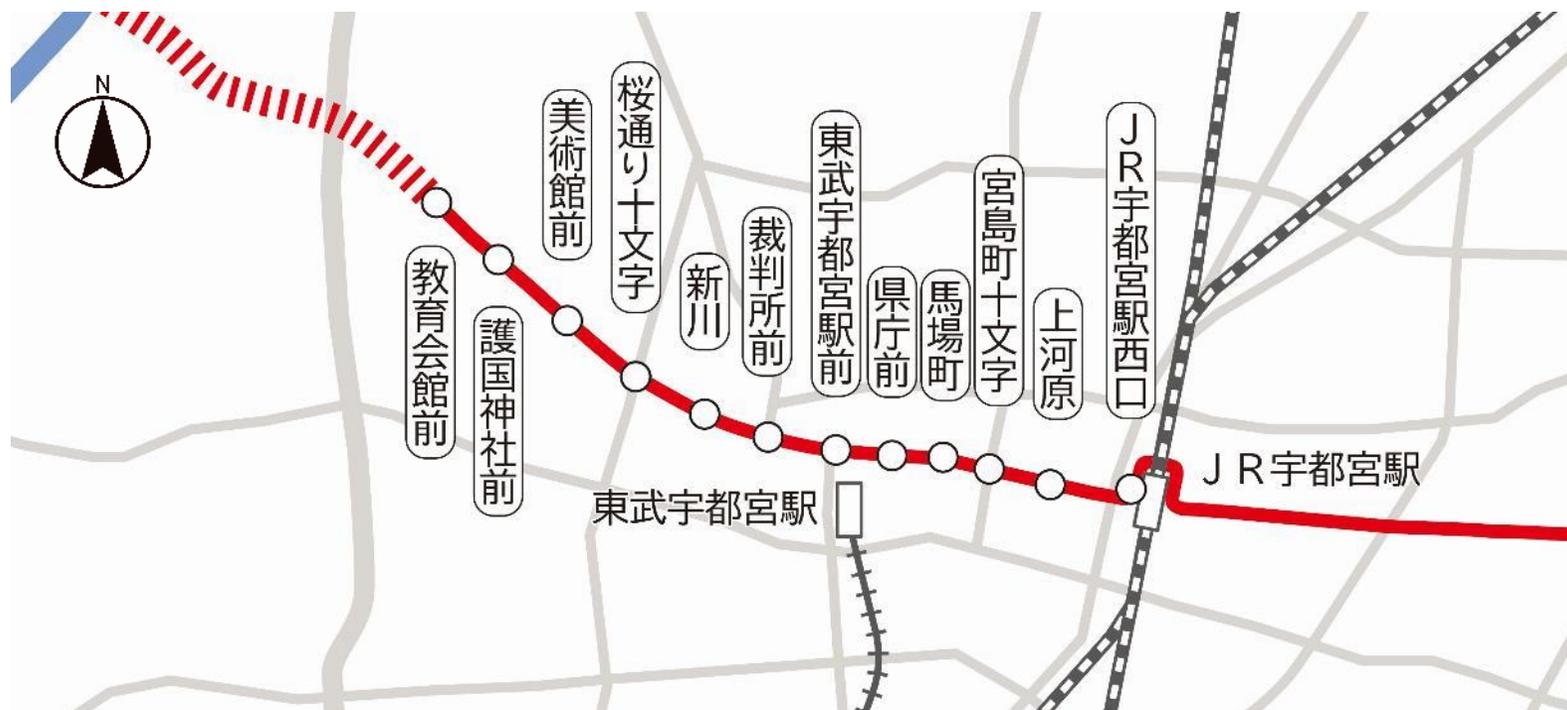


図 停留場の配置イメージ
 (※停留場位置は、今後詳細に検討。停留場名称は仮称)

2-(2) 現在の検討状況等

③ 階層性のある公共交通ネットワークの構築について（バス路線再編・地域内交通の導入等）

LRTの整備とあわせたバス路線再編に向けて、「バス路線再編の方向性（※）」に基づき、再編後のバス路線の運行内容等について検討するとともに、地域内交通について郊外部全地区に加え、市街地で2例目となる明保地区において運行を開始するなど、「階層性のある公共交通ネットワーク」の構築に取り組んでいる。

⇒ 今後とも、**バス事業者と意見交換**しながら、再編に向けた検討を進めるとともに、**地域と意見交換**しながら、地域内交通未導入地区への導入を促進するなど、引き続き、**「階層性のある公共交通ネットワーク」の構築を推進していく。**

※ バス路線再編の方向性（令和4年8月公表）

バス利用者の利便性やバス事業者の事業運営の継続性に配慮しながら、LRTと重複する大通りのバス路線の一部を再配置し、郊外部の地域拠点から都市拠点へアクセスする幹線バス路線や都市拠点内の回遊性を高める循環バス路線の充実を図る。

2-(2) 現在の検討状況等

④ 交通結節機能の強化

公共交通間の乗り継ぎ，乗り換えが想定されるＪＲ宇都宮駅西口付近，桜通り十文字付近などについて，ＬＲＴと効率的に連携するバス路線の再編などの検討とあわせ，交通結節点の機能や施設規模等について検討

⇒ **ＬＲＴとバスの乗り換えが多く見込まれる駅西側の特性，さらには，駅東側の駐車場などの乗継施設の利用実態を踏まえると，乗継利便性の確保が重要**であることから，今後，ＬＲＴとバスや自動車を含む多様な交通手段が円滑に乗り継げる施設整備のあり方について検討を進めていく。

⑤ 需要予測

駅東側のライトライン開業後の移動実態を反映した予測手法について，有識者の意見を伺いながら，**より精度の高い需要予測の実施**に向けた取組を進めている。

⇒ 今後，需要予測の前提条件を整理し，駅東側でも採用した「四段階推計法」により，事業採算性を確認するための「最小需要ケース」や施設規模を把握するための「最大需要ケース」など，幅を持たせた需要予測を行っていく。

2-(2) 現在の検討状況等

⑥ 市民理解の促進

- ・ LRTを基軸としたNCCのまちづくりについて、「NCCまちづくりのオープンハウス」や「交通未来都市うつのみやオープンスクエア」において、情報発信や意見交換を行うなど、理解促進に取り組んでいる。
 - ・ 特に、駅西側の沿線地区等を対象に実施している「ライトライン体験会・意見交換会」において、**参加者からは、LRT導入後のまちづくりへの期待の声を多くいただいている。**
- ⇒ 引き続き、事業の進捗状況に応じて、広報紙など様々な媒体を活用し、正確かつ最新の情報を提供するとともに、意見交換会などの双方向の取組を拡充するなど、**あらゆる機会を通じて機運を高めながら、更なる市民理解の促進を図っていく。**



写真 「ライトライン体験会・意見交換会」の様子

2-(3) 今後の取組

- ・ 令和6年度については、本市の発展を牽引してきた県都の顔である駅西側において「(仮称)都心部まちづくりプラン」などに基づき、**ウォーカブルな空間づくり**等に向け、市民・事業者など多くの関係者と、より丁寧に**都心部のまちづくりの議論を深めていく**。
- ・ また、LRTを基軸とした「階層性のある公共交通ネットワーク」の実現に向け、**駅西側のバス路線再編**に向けた検討、**地域内交通未導入地区への導入を推進**していく。
- ・ 特に、LRTの導入については、LRTの**整備効果を最大限に発揮**し、円滑に事業を推進できるように、**駅東側の開業後に得られた様々な知見を活用**しながら、各種検討を綿密に進めるとともに、道路管理者や交通管理者などの関係機関との協議・調整や、市民の皆様をはじめとする多くの関係者との**意見交換をより丁寧に行っていく**。
- ・ これらの取組を十分に積み重ね、それを踏まえた駅西側のLRT整備を図ることが必要と考えていることから、軌道事業の特許申請については、**令和7(2025年)年度**、開業については、**2030年代前半を目指していく**。
- ・ 今後とも、**「ライトラインをフル活用」**しながら、子どもから高齢者まで、誰もが便利に安心して暮らすことができる**「スーパースマートシティ」**の実現に向けて**取り組んでいく**。